

令和5年度 授業改善推進プラン 体育科

①学習状況の分析と課題（昨年度の改善策の結果分析も含む）

1年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	運動経験に差がある。熱中症対策で、校庭使用が不可になるということもあり、全般的に体を動かす経験が不足している。 友達の良い動きを自分から見つけたり、伝えたりすることができない。振り返りで、自分ができていることとできていないことの把握が難しい児童がいる。 順番やきまりを守れなかったり、自分の思いを優先して活動してしまったりする児童もいる。きまりを守って誰とでも仲良く運動する姿勢を養いたい。
2年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	全体的に運動経験が乏しく、ボールなど用具の操作も経験が少ない。友達の良い動きを見つけることはできるが、具体的に伝えられない児童もいる。振り返りでは、自分の気持ちを書くことが多い。 自分の思いを優先したり、勝敗を受け入れられなかったりする児童もいる。
3年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	日々の授業から、運動経験や体幹を使うことに大きな差が見受けられる。用具の操作はポイントを伝えると、少しずつ改善した。泳力に関しては、ふし浮きがやっとなることができる児童と25m泳ぎ切れる児童との差が大きい。 友達の動きの良いところを見付け、伝えることができる。しかし、自分の課題に合った練習を考えることは難しい。 楽しそうに活動をする児童が多い。ただ運動するのではなく、友達と教え合いながら自分の課題に取り組む姿勢を養いたい。
4年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	運動経験や技能の差が大きい。運動のポイントやコツをこちらから提示することで少しずつ改善が見られた。 自分の課題を見付けることができるが、その課題に合った練習や課題を解決していく手立てを見付けることは難しい。また、考えたことを友達に分かりやすく伝えることにも課題が残る。 楽しそうに活動をする児童は多いが、友達の考えを認めたり、話を聞いたりすることには課題が残る。また、苦手な運動にも粘り強く努力する態度を養いたい。
5年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	スモールステップでの指導により、どの児童も技能の向上はある。得意不得意のはっきりする運動では、個別指導が必要である。 励ましや称賛の言葉など、声をかけ合う場面が増えた。技能面での言葉かけを増やしていきたい。 学習カードを使い、学習内容を振り返らせることで運動に意欲的に取り組んでいる。集団の中で学び合う態度を育てていきたい。
6年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	主運動につながるための運動を継続して取り組み続けることで技能の高まりが見られた。技能の差が大きい運動については、個別指導や段階的指導をする必要がある。 互いに言葉かけをする場面は増えてきた。技能面での具体的な言葉かけを増やす必要がある。 学習カードを使い、めあてをもって取り組むことができている。チームやグループなど集団で学びを進めていく際もめあてを立て、目標をもって取り組んでいる。

②授業改善策

- | | |
|----|---|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none">・発達段階に合わせた場や用具を用意することで、身体の動かし方、道具の使い方が分かるようにする。活動時間を確保し、基本的な動きを身に付けることができるようにする。・動きのポイントを示す掲示物や模範を示し、児童が良い動きを意識して取り組めるようにする。自分の動きの良さや課題を見つけられるように、振り返りカード等を活用する。・児童のできた姿を積極的に評価する。児童同士が互いの良い姿を伝え合い、運動の良さ、楽しさを感じられるように場や環境の工夫をする。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none">・主運動につながる運動をスモールステップに分けて行い、発達段階に合わせた用具や運動を選定し、スモールステップで基本的な動き方や用具の使い方を行う。様々な運動遊びに取り組み、多様な運動経験を積ませようとする。・良い動きをしている児童に、教師が率先して具体的に良い所を伝える。また、児童が友達の良い動きを見てその場で伝えられるよう促し、振り返りで友達の良い動きを発表する時間を設ける。・教師が積極的に言葉掛けしたり場を工夫したりすることで、児童が前向きに運動やゲームを楽しめるようにする。良い学習姿勢については、全体に共有するようにする。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none">・主運動につながる動きを準備運動に取り入れ、多くの児童が運動の基本となる動きや技術を身に付けられるようにする。・コーディネーション運動を取り入れ、体幹を鍛えるようにする。・自分の課題を見付られるように、動きのポイントを示す掲示物やワークシートを提示し、児童一人一人が良い動きを意識して取り組めるようにする。・ゲーム運動の際は、チームで作戦の話し合いをする場を設け、課題解決のための練習や手立てを児童自身に考えさせる。 |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none">・技能のポイントを児童に提示したり、スモールステップで運動に取り組めるように場を工夫したりしていく。・学習カードや掲示物を用いて自分の課題を見付けさせたり、誰もが楽しく運動に取り組むためにルールや簡単な作戦を選択させたりできるようにする。学級の中で工夫や解決策を共有していく。・教師ができたことを称賛し、達成感を味わわせる。学習カードなどで、友達のいいところを見つけ、振り返る。勝敗に関わらず、次に生かそうとする前向きな姿勢を養う。 |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none">・技能ポイントの例示や学習カード（school takt 等）の活用で、できたという達成感を味わわせる。・個人やグループでの言葉かけを通して、自分や友達のよさを伝え、技能の向上に結び付ける。また話し合ったことを学級・学年内で共有できるようにする。・友達の考えや取組を認め、互いに運動の楽しさや喜びを味わえるようにする。 |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none">・各運動領域の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができるように ICT 機器や学習カードを活用して、動き方やポイントを理解させる。・活動を工夫できるように、その時間に自分が取り組むめあてや課題を明確にし、技能ポイントの例示や学習カードの活用、グループでの話し合いなどの具体的な学習方法を考え、実践する。・個人だけでなくグループでアドバイスをし合い、技能の向上を目指す。 |